

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 471

所管部局	農林商工部	所管課	商工観光課	担当者名	山内 里美
事業名	観光イベント振興事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	観光イベント振興事業			政策体系	243
会計	一般会計	科目	7.商工 - 1.商工 - 3.観光		

## 1. 事業の概要

市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の集客による地域の活性化につなげるため、商工会や実行委員会が主催する観光イベントに対し支援を行う。

## 2. 事業の目的と必要性

### ① 施策で目指す目標との関連付け

地域の特色を生かしたイベント実施を支援することにより、参加者や観光客にその土地ならではのイベントに参加してもらうことで地域の良さを感じてもらおう。  
 施策目標として定める「観光入込客数200万人」を目指す。

### ② 事業を実施する必要性

イベントを主催する実行委員会や商工会に支援を行うことで、イベント運営の安定化を図ることができる。イベント運営等を通じて市民の地域に対する誇りや一体感を高め、市内外から多くの人を迎えることで地域の活性化、もてなしの心の高まりにつながる。

## 3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	10,605	10,341	8,135	7,675	6,835	7,460	7,460
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	1,051	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,605	10,341	8,135	6,624	6,835	7,460
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.50	0.24			
人件費	千円	—	—	3,948	1,881			
事業費総額	千円	—	—	12,083	9,555			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

美山大野ダムさくら祭り（補助金）	250,000円
清流美山の鮎まつり（補助金）	380,000円
南丹市商工会イベント（補助金）	6,900,000円
（やぎの花火大会・そのべ夏まつり・そのべとんど祭り）	
美山大野ダムもみじ祭り（補助金）	60,000円

## 5. 事業結果の概要

美山大野ダムさくら祭り	4月4日～12日	25,000人
そのべ夏まつり	8月1日	7,000人
南丹やぎの花火大会	8月14日	85,000人
清流美山の鮎まつり	8月15日	3,000人
美山大野ダムもみじ祭り	11月14日・15日	1,700人
そのべとんどまつり	1月15日	1,000人

各団体が主催する観光イベントへ支援することにより、長く続いてきた地域の特性を活かしたイベントを一定の規模を保ちながら実施することができた。

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活動結果等
<b>(1) 実行委員会</b>		
第24回美山大野ダムさくら祭り	4月4日(土)～12日(日)	天候にも恵まれ、観光ツアーにも組み込まれるなど、観光バスをはじめとした市内外から多数の来客があった。来場者数：25,000
第26回清流美山の鮎まつり	8月15日(土) プレ大会(8月11日～14日)	美山の清流と鮎をPRするとともに、地域住民と都市住民との交流を図り、地域振興・経済効果も大きい。来場者数：3,000人(プレ大会含む)
第21回美山大野ダムもみじ祭り	11月14日(土)、15日(日)	観光バスをはじめとした市内外からの来客があったものの、天候が悪く例年より来場者数は減少となっている。来場者数：1,700人
<b>(2) 南丹市商工会</b>		
南丹市商工会主催イベント		
そのべ夏まつり	8月1日(土)	例年別々に実施していた「そのべ夏まつり」と「七夕まつり」を合同で開催。雨天により、鼓笛パレードは室内演奏となったものの、学校や団体との連携のもと、各種催しや、沿道に七夕飾りが多数並び賑わった。来場者数：7,000人
第63回南丹市やぎの花火大会	8月14日(金)	府内で有数の花火大会として多くの来場者で賑わった。地元企業や住民の協力、ボランティアによる清掃活動など、市民も一体となった取組になっている。来場者数：85,000人
南丹そのべとんど祭り	1月15日(金)	伝統行事を継承していく機会となっている。来場者数：1000人

## 7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

地域の特性を生かしたイベントの支援を行うことで、地域の活性化や有効的な観光宣伝を行うことができた。  
 京都府の補助制度を活用し、市の一般財源の持ち出しを少しでも抑制することができた。  
 施策目標である「観光入込客数200万人」達成に向け継続した取り組みを行う。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
 地域の特色を生かしたイベントより、如何に入込客を増やすかを議論した。
- ②当該事業のアピール事項  
 イベント運営等を通じて市民の地域に対する誇りや一体感を高め、市内外から多くの人を迎えること。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
 「観光入込客数200万人」を目指した情報の発信。